

碓を聞く（本宮三香）

碓声 断続して 村巷に 響く

一杵は 一杵の 寒き よりも 寒し

日露 霜と 為り 天 肅殺

木葉 風に 翻えり 秋 正に 閑なり

誰が 家の 慈母か 独り 月に 擣つ

丁東 響き 急にして 夜 漫々

頭を 回らせば 見や 薄宦に 甘んじ

短褐 敝裘 長安に 滯まる

君見ずや 故園の 老親 兒を 懷うこと 切なるを

擣衣 碓上 涙 未だ 乾かず

碓聲斷續響村巷

白露爲霜天肅殺

誰家慈母獨擣月

回頭兒兮甘薄宦

君不見故園老親懷兒切

一杵寒於一杵寒

木葉翻風秋正閑

丁東響急夜漫漫

短褐敝裘滯長安

擣衣碓上淚未乾

解説 中国では昔、夫が外征中、留守を守る妻は夫の衣を整えるため、碓を打った。妻は淋しさに耐えながら、夫への思慕の情を込めて打つ所から、その音は哀切をもった響きと受け取られ、碓の響きは古来、淋しいものの象徴として、詩文等の素材とされている。

語釈 ※碓 布を生乾きの状態で台にのせ、棒や槌で叩いて柔らかくしたり、皺を伸ばすための道具。 ※杵 突いたりするのに用いる木製の道具。 ※肅殺 秋の冷たく厳しい空氣が草木などを枯らすこと。 ※木葉 樹木の葉。

※闌 盛りになる。 ※慈母 愛情の深い母親。 ※丁東 石や金属、玉などが触れ合う音。 ※漫漫 広々と果てしないさま。 ※薄宦 薄給の官吏。

※短褐 だけの短い粗服や布子。 賤しい者が着る衣服。 ※敝裘 破れた皮衣。 ※長安 都をいう。 ※擣衣 碓で衣を打つこと。 ※碓上 碓の上に。

通釈 碓を棲つ音が断続し、村の巷に響いている。杵の音は一つ一つ擣つごとに寒さを増してゆくようである。白い露も霜と変わり、秋の冷たい空氣で草木が枯れ、樹木の葉は風に翻り秋も今が最中である。どの家の母であろうか、独りで月に向かって碓を擣ち、トントンと杵の音が、秋の夜長に響いている。振り返って見ると子供は薄給の官吏に満足してか、短い汚い衣服を着て、この寒さにみすばらしい姿をして都で生活をしている。君はまだ知らないか、故郷の老いたる母親が、我が子を思う情に堪え、衣を擣つ碓の上に、ホロリと落とした涙が、まだ乾かないのを。